



図書館だより

令和8年 1月

天理高校図書館

あけましておめでとうございます。昨年は、大変お世話になりました。今年も、天高図書館をよろしく願いいたします。



いよいよ3学期が始まりました。受験、卒業式など、大切な節目の学期となりました。まだまだ、寒い日が続いています。体調管理には十分に気を付けてください。

★今年の干支(えと)は**午**(うま)。午年の「午」は動物に当てはめた十二支だと「馬」になります。午年は、エネルギーと行動力が高まる年とされます。この年は、積極的な挑戦やスピーディーな決断が成功を引き寄せると考えられています。

＜午年うまれの著名人：藤井聡太 山田裕貴 浜崎あゆみ

桜田ひより 斎藤由紀 清原果耶 ＞

午年にちなんで、「馬」本を特集します。競走馬の話や、馬が主人公の話、馬と人との絆が描かれているものなど、天高図書館蔵書本の中から、選りすぐりの本を紹介します。

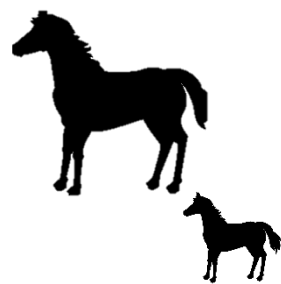


本特集



あまかけ『**天翔る**』村山由佳 著 講談社

札幌に住む看護婦の貴子は、学校に行けなくなった11歳の少女、まりもと知り合う。自分が通う牧場(ランチ)にまりもを誘うが、そこで待っていたのは、風変わりな牧場主と、エンデュランスという乗馬耐久競技だった。馬をいたわりながら、野山にめぐらされたルートをたどり、長距離を翔けぬける。競技に魅せられた者たちだけが見ることのできる世界とは？ それぞれに喪失感を抱えた男女たちが生きることに向き合っていく感動作。(講談社 HP より)



『**風の向こうへ駆け抜けろ**』古内一絵 著 小学館

芦原瑞穂(18歳)は地方競馬界にデビューした、数少ない女性騎手。敬愛する亡き父親への思慕から競馬界に身を投じた。だが、彼女の受け皿となったのは今にもつぶれそうな「藻屑の漂流先」と揶揄される寂れた弱小厩舎。そこにいる調教師、厩務員たちは皆それぞれが心に傷を抱え、人生をあきらめきったポンコツ集団だった。

弱小厩舎のため強い競走馬も持てず、さらなる嫌がらせを受け、困っていた矢先に出合った一頭の馬。虐待により心身共にボロボロだったこの馬も懸命な介護と歩み寄りにより、生まれ変わったかのような素晴らしい競走馬に変貌を遂げる。当初は廃業寸前だった厩舎も、瑞穂の真摯な努力と純粋な心、情熱から、徐々に皆の心は一つとなり、ついには夢のまた夢である狭き門、中央競馬の桜花賞を目指すまでになる。が、その行く手には様々な試練が待ち受ける。温かな絆でつながった彼らの運命は…？(小学館 HP より)



『**ザ・ロイヤルファミリー**』早見和真 著 新潮社

お前に一つだけ伝えておく。絶対に俺を裏切るな――。父を亡くし、空虚な心を持て余した税理士の栗須栄治はビギナーズラックで当てた馬券を縁に、人材派遣会社「ロイヤルヒューマン」のワンマン社長・山王耕造の秘書として働くことに。競馬に熱中し、〈ロイヤル〉の名を冠した馬の勝利を求める山王と共に有馬記念を目指し……。馬主一家の波瀾に満ちた20年間を描く長編。山本周五郎賞受賞作！(新潮社 HP より)



『**戦火の馬**』マイケル・モーバーゴ 著 評論社

愛する少年と農場で穏やかに暮らしていた馬のジョーイは、戦場の最前線に送られた。そこで眼にした光景は…。ジョーイは少年との再会を信じて戦場を駆け抜ける。(TRC 内容紹介より)



『**黄金旅程**』馳星周 著 集英社

装蹄師の平野敬は、エゴンウレアが超一流の資質を秘めた馬だと確信していた…。人間の手によって生み出された生き物・サラブレッドに未来を託す人々の生きざまをリアルに描く。(TRC 内容紹介より)



『**スーホの白い馬**』

赤羽末吉 絵 大塚勇三 再話 福音館書店

貧しいけれど働き者の羊飼いの少年スーホ。草原で拾った白い子馬を一生懸命に育てるのだが…。少年と馬との悲しくも美しい民話。(TRC 内容紹介より)

＜3年生のみなさんへ＞

1部

3年生の図書返却は

1月23日(金)までに

それ以降の貸出は入試に必要な場合のみです。図書館の本が必要な人は、担任の先生の許可をもらい、担任の先生の名前で借りてください。その際、返却日は必ず守ってください。返却日を守れない人が多くて、毎年大変困っています。忘れずに返却してください。ご協力をお願いします。